

## 「劇づくりにおける造形表現の可能性」

福山平成大学 福祉健康学部 こども学科 講師 佐伯岳春



### 1. 総合的な表現力の育成を目指した劇づくり

保育内容の領域「表現」は、平成元年度（1989 年度）幼稚園教育要領に、これまで保育内容 6 領域「健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作」であった「音楽リズム、絵画製作」が統一され「表現」となり、5 領域「健康、人間関係、環境、言葉、表現」を幼児の育ち方を側面からとらえるという内容で再編されました。

その後、平成 30 年「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の同時改訂後は、総合的な表現として、劇やごっこ遊びなどを指導する内容の指導書などが増えてきたように思います。最近では、「表現遊び」という言葉が使われ、劇づくりやごっこ遊びなどに焦点をおかれた指導書なども出版され、保育者を養成するために領域「表現」での指導内容を見直しが必要だと考えました。

### 2. 劇の背景や衣装における造形表現

保育内容の領域内容が変わり、領域「表現」の指導内容の見直しが必要になったため、前任校の短大では、声楽の教員、器楽の教員、造形表現担当教員（筆者）の 3 人で、卒業研究としてゼミ生に劇やミュージカルを指導しました。



図 1 背景を青く塗り、海の中を表現

劇やミュージカルは、地域の子どもを対象としたイベントの一部として上演したのですが、子どもたちが一つの建物の中でいろいろなブースや出し物を回れるように設定したため、劇を上演するステージを建物の入り口ホールに設定しました。その為、ステージの背景となる窓ガラス全体を青く塗り海の中を表したり（図1）、背景を絵本のように作り、本のページをめくるように場面を変えるなど、ステージとして設備の整っていない建物を利用して、劇の背景を表現することに試行錯誤しました。

また、別の年には魔法によって野獣や時計（図2）、家具（図3）などに変えられた役が出てくる劇の衣装を、役者、衣装担当の学生とともに打ち合わせを重ね製作しました。



図2 魔法で時計に変えられた役の衣装

役者の動きを制限せずに、子どもたちも一目見て分かる

ように、ポットの衣装（図4）は、右腕を注ぎ口、左腕を持ち手と見立て、役者が常にポーズをとることでポットを表現しています。魔法が解け、ポット夫人から普通の人になった時、両腕の動きも変化し、子どもたちに魔法が解けたことが分かりやすく伝わった衣装だったと思います。

そのシーンは、他の役者も写真の衣装を脱ぎ棄て、一斉に普通の人の姿で舞台に出てきたことから、これまで目の前で見ていた人の変化に大きく目を見開いている子どもや泣き出す子どももいて、役者の演技も含め、衣装の変化によっても、子どもたちの心をつかむことができるのではないかと思った瞬間でした。

学生と一緒に劇を制作するなかで、平成30年の劇上演後、学生に対してとったアンケートでは、96%の学生が「熱心な態度でミュージカル制作に挑んだ。」と回答しています。また、「劇を制作する活動を通して多くを学びましたか？」という質問に対しては「強くそう思う」が70%、「そう思う」は30%と劇の制作にかかわったことで学びが多かったと考えた学生が全員だったという結果が出ました。

劇を制作したことで、学んだ、あるいは得たと思う内容について質問したところ「協調性」、「責任感」、「達成感」「一体感」「表現・演奏・制作技術」の順で多く学んだと回答しています。この結果から、制

作技術などの表現力よりも、役者だけでなく、舞台美術を担当していたものも、他者との関わりを通して多くのことを学び成長したと考えている学生が多かったと考えられます。

詳しい内容は、共著している拙著『領域「表現」における相乗作用をもたらす表現教育の可能性—ミュージカル「ライオンキング」を題材に—』湊川短期大学紀要 第55集をご参照ください。

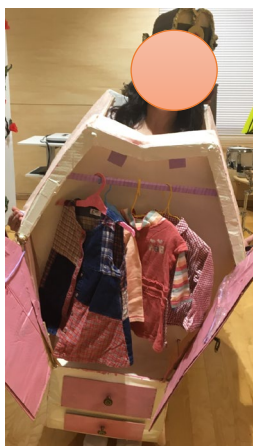


図 3 魔法で家具に変えられた役の衣装



図 4 魔法でポットに変えられた役の衣装

### 3. 劇の背景にプロジェクターを使った造形表現

現在、勤務している大学では、校舎1階にある音楽室の掃き出し窓をステージとして、隣接する芝生の広場に観客を招き入れる「音楽と物語りの夕べ」という劇とピアノ演奏を上演するイベントをしています。筆者は2022年から学生と一緒に、劇の制作に取り組むようになりました。

このイベントは、学生が保育者や教育者としての表現力を身につけることや、一つの作品を共同して作っていく協調性の獲得、背景や舞台衣装などの造形表現、演技をすることでの身体表現や言葉による表現、効果音やBGMなどの音楽表現をどのように観客に伝えるか参加者全員で観衆に伝えるための「表現」を考え創造する、創



図 5 筆者が絵を描いた

「音楽と物語りの夕べ」の広報資料

造力を身につけることなどを“ねらい”としています。また、例年9月末に開催しており、涼しくなってきた秋の夕べを暮れ行く夕陽や、虫の声と共に音楽や物語を地域住民の方に楽しんでもらうというイベントです。

前任校で、劇づくりをしていましたが、観客席が屋外で、日が落ちて暗くなるピンポイントの時間での劇は、屋内で制作していた時と条件が異なるので、試行錯誤を重ねたのが背景の演出です。

背景は、プロジェクターを使って舞台裏となる音楽室の中から映し出すという方法を取りました。スクリーンは、手作りで、掃き出し窓3m×3mの大きさに透光性のある布を縫い合わせ、物干し竿を上下に入れて張っています。音楽室には、3面の掃き出し窓があり、中央にピアノ、ピアノを挟むようにスクリーンを張りました。

令和4年は、物語の進行に合わせて写真や絵の背景を、音楽担当の先生のピアノのBGMに合わせて、スライドショーを作成しスクリーンに映し出しました。スライドショーは事前に作成し、役者となる学生は、そのスライドショーに合わせて演技を練習し上演しました。

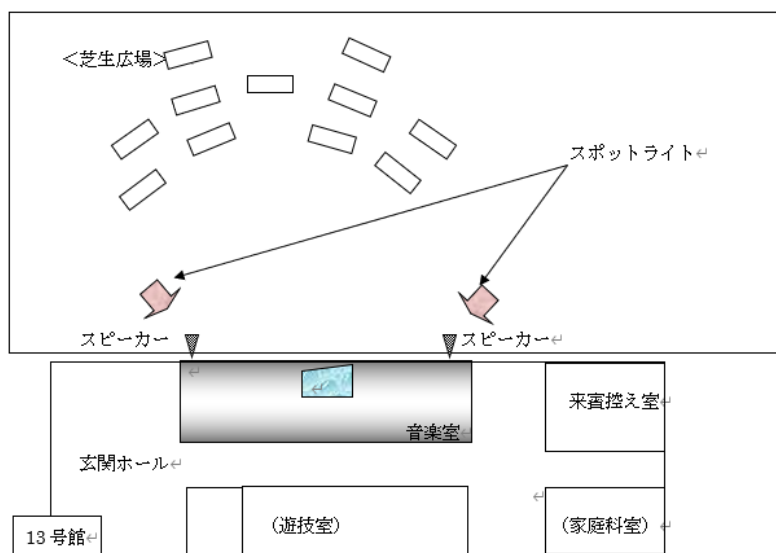


図6 「音楽と物語りの夕べ」会場配置図

イベント終了後のアンケートでは、「秋の夜に、素晴らしい演奏を聴かせていただきありがとうございました。初めての劇もゆったり考えさせられる素敵なものでした。」といった高評価を多くの方からいただくことができました。





図 7 令和 4 年度の会場の様子

#### 4. 「造形表現」の可能性

「表現」という領域が保育内容に設定されて 30 年以上たちますが、その内容を指導している教員として、子どもの表現やそれを引き出す保育者の役割や専門性を学生に教えていくには、まだまだ研究を深めていく必要があると考えています。領域「表現」の研究を深めるためにも、今後も子どもたちに見せたい物語を学生と一緒に作っていきたいと思います。

子どもたちに物語を作って見せるには、プロジェクターの使い方によっては、劇の背景だけでなく、影絵や動画の映写など、物語に合わせた内容を、使用方法によって効果的に見せられる表現ができるのではないかと可能性を感じています。

PC やスマートフォンなど時代を反映した機器も取り入れながら、今後も「造形表現」の見方や考え方を活かし、多様な「表現」を試みたいと考えています。